



平成6年度気象研究所研究発表会の御案内

気象研究所では、研究発表会を以下のとおり開催します。なお、今年度はモデルシミュレーションを中心に発表会を行いますので、関心をお持ちの方は、奮って御来場下さい。

1. 日時：平成6年11月29日（火） 11：00～17：00
2. 場所：気象研究所講堂
（茨城県つくば市長峰1-1）

3. プログラム

《午前》

- 1) 富士山頂における自由対流圏オゾンの測定
堤 之智・財前 祐二・牧野 行雄

《午後》

- 2) 多様な地表面の大気モデルのためのモデル化
高橋 俊二
- 3) 静水圧モデルと排静水圧モデルとの比較実験
～将来の高分解能気象予報モデルを睨んで～
加藤 輝之・斉藤 和雄
- 4) プランバグ・メラモデルを使った沿岸海況
のシミュレーション
湊 信也
- 5) 全球大気海洋結合モデルの開発
野川 彰・行本 誠史・本井 達夫

お問合せ：気象研究所企画室

TEL. 0298-53-8534 岡田
または8539 西井

編集後記：トラブルが少なく優秀だった気象衛星「ひまわり4号」も先月その設計寿命の5年を経過しました。この後を引き継ぐ「ひまわり5号」が来年2月1日にH2ロケット3号機で打ち上げられる予定になっています。

今度の「ひまわり」では、これまでの赤外、可視の2つのセンサーから、赤外センサー3つと可視センサー1つの合計4つのセンサーになります。新しい3つの赤外センサーのうち2つはこれまでの赤外センサーの波長域（大気の窓領域）を2つに分割した波長域を持ち、それぞれを赤外1、赤外2チャンネルと呼びます。また2つを合わせてスプリットウィンドウチャンネルと呼びます。残りの1つは水蒸気による吸収が大きい所の波長域で観測し、これを水蒸気チャン

ネルと言います。

このようなセンサーの増加に伴って、画像処理などの様々なプロダクトの変更が必要となるので、気象庁などの関係者は現在その対応に奔走しています。本誌の口絵「日々の衛星画像」のコーナーでは、「ひまわり5号」運用開始後は赤外1チャンネルの写真を掲載していく予定です。これは今までの赤外画像と見かけ上はほとんど変わりありません。

新しい「ひまわり5号」の画像からはこれまでよりもさらに多くの情報が取り出され、大気の状態の把握などに大いに貢献することが期待されています。先日の「きく6号」のようなことにならないように願っています。

（大野 智生）